



神戸淡路鳴門自動車道全通10周年

今年、淡路島内及び周辺市においては、全線開通から10周年を記念して「神戸淡路鳴門自動車道全通10周年」と銘打ち、様々な関連イベントが開催される予定です。

県土整備部で整備した公園などもイベント会場となる予定です。この紙面でも、記念イベントなどを紹介していきたいと思っております。みなさんご参加、ご協力により、一緒に盛り上げていきましょう。

AWAJI ISLAND MAP



洲本側の抗口



五色側の抗口

風土資産

島内で最長だった横尾隧道(トンネル)

かつて、淡路島の西岸と東岸である五色町と洲本市街を結ぶ県道洲本五色線の中川原町市原・五色町鮎原塔下境に横尾隧道というトンネルがありました。(明治30年完成、全長180m、幅4m、高さ4.3m) このトンネルのほぼ真ん中が洲本と五色の境界にあたります。平成2年に横尾隧道南側の山を切り開いて新しい道を作ったため、現在では閉鎖(立入禁止)されています。このトンネルは現役時代、淡路島で最も長いトンネルとして、また心霊スポットとしても有名

でした。ちなみに現在では、神戸淡路鳴門自動車道の途中(淡路市)にある仁井トンネルが最も長いトンネルとなっています。(平成10年完成、全長429m) 横尾隧道は、高津雅雄氏が初代鮎原村長時代に五色鮎原塔下から横尾峠を越えて洲本へ出る県道横尾線と共に、鮎原出身の事業家百山磯太氏の協力により明治30年に5年がかりで完成させたものです。現在でも、鮎原河上神社境内に高津氏のブロンズの胸像と顕彰碑が残されています。また、この当初のトンネ

ルは幅員2.5mの煉瓦隧道でしたが、昭和35年に県洲本土木出張所(現・洲本土木事務所)が総工費1,800万円をかけ、バスが通行できるように現在のコンクリートのものに拡幅改修しました。

※トンネル：地上から目的地まで地下や海底、山岳などの土中を通る人工の、または自然に形成された土木構造物であり、断面の高さや幅に比べて奥行きが長い地下空間をいいます。

日本ではかつて中国語と同じく「隧道」と呼ばれていましたが、今日では一般的に「トンネル」と呼ばれるようになりました。トンネルの正式名称に「隧道」と記されることも多くあります。

自然・共生・淡路島③

ニホンヒキガエル (ヒキガエル科)



近年その姿を見かけなくなったヒキガエルだが、かつては「ガマの油売り」の口上や「ガマガエル」の名で知られた大型のカエルで、淡路島の古来は「オンビキ」と呼んでいた。

ヒキガエルの仲間には地球上に約350種、国内には5種分布しており、淡路島のは西南日本に広く分布するニホンヒキガエルとされているが、写真のような色彩の個体も見られる。



動作は鈍く、不器用なカエルで、早春の産卵期を除き水辺には現れず、普段は薄暗い林の中でミミズや昆虫類を食べてひっそり生活している。

上の写真は昨年2月中旬、島北部の山間の溜池で見かけた長さ数mにも及ぶニホンヒキガエルの卵塊。その存在は、地域の自然環境の健全さを示す一つのバロメーターである。

Photo&Text：春日井明(兵庫県自然遺産指導員・環境省自然公園指導員・ネイチャー・アソシエーション/自然研(NSI)代表)

安全で安心して通行できる道づくり

▼現在の明神安乎線

(一)明神安乎線 山田バイパス

淡路島を横断する「明神安乎線」は、淡路市明神で福良江井岩屋線に、洲本市安乎で国道28号に接続し、地域住民にとって重要な生活道路となっています。

この道路が通る淡路市山田地区では、幅が3.0m程度と狭く、見通しが悪いため車のすれ違いが出来ない区間が長く続きます。この区間に幅5.0mのバイパス道路を整備し、安全な通行ができるようにしています。



計画
現道

▼工事施工状況



★イベント報告★

■社会基盤学習事業 大日ダム見学会

「志知を流れる川のひみつをさぐる!」をテーマとした体験学習の一環として、南あわじ三原志知小学校の生徒(5年生11名)による大日ダムの見学会が行われました。

普段は見ることができない監視制御室やダム本体の内部を見学し、ダムの仕組みや役割について学びました。



▲学習会の様子



▲ダム内部の管理トンネル

■阪神タイガース選手らによる少年野球教室開催(12月9日)

平田勝男2軍監督をはじめ、赤星選手や福原選手ら12名を招いた野球教室が、県立淡路佐野運動公園で開かれ、島内や神戸市内から小学生250人が参加し手ほどきを受けました。

また、野球教室を記念して植樹が行われ、県のレッドデータブックに記載されている貴重種のハマボウの苗木12本が園内に植えられました。



▲開会式の様子

▼植樹する選手ら

安全で快適な歩道リニューアル ～「つくる」から「つかう」へ～

〈歩道段差解消工事〉

現在、急速に高齢化が進むわが国では、高齢者や障害者はもちろん、歩行者の誰もが安心してスムーズに移動できるユニバーサルデザインによる歩行空間の整備が急務となっています。そのため歩道のないところに歩道を設置するとともに、平成12年度に施行された「交通バリアフリー法」に基づき、現況の歩道についても段差解消を行っています。

歩道の巻込み部分・横断歩道口には2cmから0cmへ、車が入る部分には5cmから1cmへとそれぞれ段差を小さくできるスロープ付のブロックを設置し直し、車椅子の方などがスムーズに移動できるようなバリアフリーな歩行空間を整備するものです。

歩道の乗り入れ口などで部分的に工事をしているのを見たことはありませんか？何の工事をしているのだらうと思われることも多いと思いますが、すべての歩行者が快適に利用できるようになっている工事です。

洲本土木事務所では、3月までに626箇所の段差解消をする予定です。工事中は何かと不便をおかけしておりますが、ご理解とご協力をお願いします。

※ユニバーサルデザインは年齢や障害の有無にかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能できるようにデザインすること。「できるだけ多くの人が利用可能であるようなデザインにすること」が基本コンセプトである。

※バリアフリー：障害者を含む高齢者等の社会生活弱者が社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障害（バリア）や精神的な障壁を取り除くこと。



着工前



完成後



着工前



完成後

淡路島の湧水・名水(その3)



「牛王水」MAP⑥

牛王とは、牛の肝の中に含まれる霊薬のことで、最も優れたものという意味をもっています。

傍らには牛王堂が建ち、2体の不動尊像が祀られています。湯水期でも変わらず湧いていて、夏は冷たく、冬は温かいこの水は、

昔から飲み水だけでなく田んぼの灌漑用水にも使われてきました。

「弘法大師の祈水」MAP⑥

弘法大師(774-835)が全国各地に修行の旅に出られた時、この地に立ち寄り、自らの修行の地と選ばれて日夜汲み取りに励まれました。その一念が通じ、山頂に清水が湧き出したと伝えられています。



「産宮神社」MAP⑥

産宮神社は反正天皇を祭神として、そのご生誕の地に創建されました。淡路島は自然が豊かで鳥獣も多かったため、仮宮が置かれ大和朝廷の狩猟地となっていました。仁徳天皇が淡路島で遊猟されていたとき、反正天皇が誕生しこの神社の井戸の水を飲んで産湯にされたと伝えられています。



弘法大師の祈水

「牛王水」…洲本市上内原尾谷
「弘法大師の祈水」…洲本市千草(柏原山)
「産宮神社」…南あわじ市松原103

湧き水は、遙か昔から、地域の人々の生活用水として利用され、また信仰の対象ともされてきました。そうした湧き水が淡路島にも多くあります。

インフォメーション

●第3回あわじ総合緑花プラン推進フォーラム●

平成17年度に淡路県民局が策定しました「あわじ総合緑花プラン」を推進するため、この度フォーラムを開催します。

日頃から緑花グループ・団体が活躍されている方々、奮ってご参加ください。

- 日時 2月23日(土) 13:00~16:30
- 場所 洲本ポートターミナルビル3階みくまホール(約100名)
- 対象 淡路島内の花づくりグループ、NPO団体等の緑花関連機関など
- 内容 第1部 基調講演

- ①「自生種を用いた緑花の可能性と課題」
兵庫県立淡路景観園芸学校 既原教授
- ②「淡路の野の花を見直そう」
兵庫県立淡路景観園芸学校 澤田講師

第2部 パネルディスカッション「淡路らしい緑花を目指して」
講演者及び島内花づくりグループ代表 計5名

■問い合わせ先 淡路県民局県土整備部まちづくり課 TEL:0799-26-3213



▲昨年度のフォーラムの様子

●あわじ歴史浪漫・風景街道フォーラム●

淡路の原風景の創性について考えるフォーラムを開催します。

- 日時 3月7日(金) 13:30~17:00
- 場所 県立淡路夢舞台国際会議場(淡路市夢舞台1番地)
- 内容 第1部 講演会

基調講演 中村 良夫(東京工業大学名誉教授)
講演 藤本 貴也(前国土地理院長)
講演 竹林 征三(富士常葉大学教授)

第2部 パネルディスカッション「地域協働による淡路の原風景の創成について考える」

座長 竹林 征三(富士常葉大学教授)
パネリスト 林 美香子(フリーキャスター、フードジャーナリスト)
門 康彦(淡路市長)
田村 喜子(NPO風土工学デザイン研究所理事長)
原田一二三(兵庫県淡路県民局長)
山田 脩二(淡路瓦師)

■問い合わせ先 淡路県民局県土整備部企画調整担当 TEL:0799-26-3221

土木用語集

意外と難しい土木用語。そんな土木用語について少しずつ紹介していくコーナーです。今回は、港湾・海岸に関する用語です。

用語	解説
イメージ図	
港湾	船舶が安全に停泊し、水と陸をつなぐための拠点となる構造物および施設を指す。港湾法に基づく港。地方港湾と重要港湾がある。国土交通省所管。
漁港	主に水産物の取り扱いをするための港湾。漁港築港法に基づく港。農林水産省所管。
さん橋	地中深くに杭を打ち込み、その上に船を係留するための橋を造る。主に水深が深いところや軟弱地盤の新設採用される。
防絨材	船の舷(両側面)が着岸する時の衝撃をやわらげるために岸壁などに取り付けられているゴム製品。
陸間	潮流の上昇や高い波から陸地を守るために防浪堤などに取り付けられているゲート。
防波堤	波を遮断し、港湾内の穏やかさを維持するために設けられる構造物。波から港湾を守るための堤防。
消波工	波の強い上向きや波の威力を弱めるために堤防などの前面にブロックを設置して、背後の土を守る施設。
突堤	海岸線に平行な流れを造って、砂浜の砂が流されていくのを止める施設。海岸線にはほぼ直角に建設される。
離岸堤	波の勢いを弱めるために沖合に造られる構造物。毛砂効果が高い。
港堤(人工リーフ)	期待される効果は離岸堤と同様であるが、水面上には姿が見えず景観面で優れている構造物。離岸堤に比べ波を弱める効果は劣る。人工のサンゴ礁(artificial reef)。

淡路の土木・建築遺産を探ねて(第10回) MAP⑥

～東山寺～

東山寺は伊弉諾諸神宮の鎮護と庶民信仰の中心として弘仁10年(819年)に弘法大師により開かれた尼寺で、現在の寺は奥の院にあったものが焼失した後再興されたものです。最初に参拝者を迎えてくれる仁王門と本堂は淡路最古の木造建築物で、入母屋造りとなっており、室町時代養宜館主(八木淡路守護職)の細川頼春が寄進したものです。本草の千手観音は弘法大師の一木三体の名作と伝えられ、常隆寺や千光寺のものとも木兄弟です。境内では四季折々の花を楽しむことができ、特に本堂に通じる参道の紅葉は有名です。



昔から淡路島に残る「35日のお参り」は東山寺を中心にも行われており、亡くなった方の成仏を願っておむすびを谷に転がし、浄土へと向かう道に阻む餓鬼の空腹を満たし無事にあの世にたどり着くようにとの願いが込められています。

淡路島に残る多くの言い伝えや風習は、その地域の人々の思いを伝えてくれます。そして地域にある建物について「この建物はなんだろう」という、ふとした「はてな」から古の人々の思いを窺い知ることができます。

ふるさとの風景

淡路鉄道から始まった(その10) MAP⑦

駆け足で淡路鉄道廃止後のまちづくりを見てきましたが、終点の福良からは国道に生まれ変わったお話です。

南あわじ市質集から福良に至る国道2.4kmは幅員が狭く歩道がありませんでしたので、昭和47年に改築の計画が事業化されました。オイルショックに伴う需要抑制で着工が昭和55年にずれ込みましたが、昭和58年4月の南淡中学開校に合わせた暫定開通を経て、昭和59年2月にバイパス部が完成し、平成2年には現道拡幅部が完成しました。

計画策定に際しては旧建設省案の2車線14m道路に対して旧南淡町から4車線26m道路とその沿道の大商店街構想案も提案されましたが、地元の意向もあり14mで整備が進められました。

毎年11月に開催される淡路島女子駅伝ではここを舞台に熱戦が繰り広げられますが、テレビの放映もあってコスモスの花咲く美しい道として福良の顔になっています。



中山峠付近(築港期:青銅時代)



福良田付近(築港期:戦国時代)

つくる・まもる・そだてる

淡路さわやか県土

お問い合わせ：淡路県民局県土整備部
洲本土木事務所企画調整担当へ
〒658-0021 洲本市役所2丁目4-5
TEL.0799-28-3225 FAX.0799-24-4513
http://web.pref.hyogo.jp/awaji/sumoto/tdc/
メールアドレス：awsjkc@pref.hyogo.lg.jp

発行：平成20(2008)年7月25日

春・夏号
SPRING&SUMMER
VOL.11



季刊誌「淡路さわやか県土」は、淡路島で行っている土木事業やまちづくりを広く一般に知ってもらおうと、淡路県民局県土整備部の若手メンバーが中心となり、編集・発刊しています。
「歴史とロマンと神話の島」を舞台にした皆さんの地元を探访し、島の原風景や豊かな自然、生き物、習慣、近代遺産などの様々な風土資産の紹介も交えて、土木事業やまちづくりをお伝えします。
編集にあたっては、地域の皆さんの情報も数多く取入れながら発刊して参りたいと考えておりますので、どうぞご協力をお願い致します。



風土資産① 明石海峡大橋

～世界に誇る吊り橋～

この長く美しく伸びる、吊り橋は何でしょう？
そう、明石海峡に隔てられた神戸市舞子と淡路島を結ぶ明石海峡大橋です。全長3,911m、中央支間長は、1,991mと世界一の長さを誇ります。
明石海峡大橋を架けるために要した工事費は、実に5,000億円にも上り、約12年の歳月をかけて工事が行われました。

この橋が開通することで、神戸淡路鳴門自動車道の一部として機能し、神戸ー淡路ー四国が陸続きとなり、淡路島にとってはこれまで海路中心であった人や物の流れが、陸路へと転換することで便利になり、大幅な時間短縮が図られました。

「神戸淡路鳴門自動車道全通10周年事業」と題して、姉妹橋を提携しているグレートベルト橋にゆ

かりのあるデンマークは前コルソール市長を招いての記念フォーラムや、約6kmの海上ハイクなど多彩なイベントが催されています。
皆さんもこれを期に、明石海峡大橋を渡り、淡路島に来ていただければどうでしょうか。

注1) 明石海峡大橋の点検・管理用通路を通って神戸・舞子から淡路島公園まで歩いて渡る

世界の長大橋ベスト3

順位	橋名	所在国	中央支間長	完成年
1	明石海峡大橋	日本	1,991m	1998
2	グレートベルト橋	デンマーク	1,624m	1998
3	湖揚長江公路大橋	中国	1,490m	2005

AWAJI ISLAND MAP



自然・共生・淡路島④

ミヤコグサ (マメ科)



近年、自生植物による地域環境づくりが行われているが、注目すべきものは山地性や海浜性の種ではなく、人為的拡散による問題を生じにくい、道端や田の畦に生えているような植物である。

その一つがミヤコグサで、本種は日当たりのよい草原、畦畔、道端などに生える多年草。

絶滅危惧種のチョウ・シルビアシジミの食草でもあり、4～5月に鮮やかな黄色の花を花茎に1～3個つける。(花を5個もつけるのは、外来種のセイヨウミヤコグサなので要注意)

花期も長く、刈取りにも強いので、チガヤやマツナギなどと組み合わせれば、沿道緑化やまちかど花壇のみならず、現在主流となっている外来の緑化資材に代るものとして、道路法面や農災関連の工事、圃場整備時の環境復元などにも適すると思われる。

今後、このような自生植物による緑化を出発点として、沿道の農地や里山も生態系保全の視点で地域の人々が一体となって管理し、自然公園島として真の環境立島を実現したいものだ。

Photo&Text：春日邦明(兵庫県自然保護指導員・環境省自然公園指図員・ネイチャー・アクション/自然研(NSI)代表)

祝 花と潮風、香るみち～阿万バイパス開通！

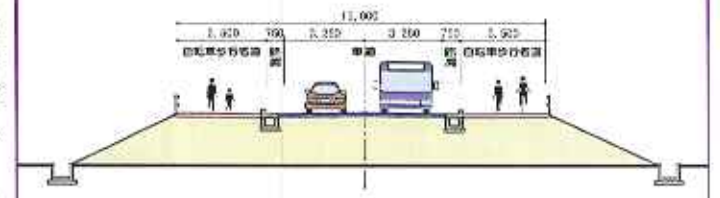
平成20年3月26日、南あわじ市内の国道28賀集八幡から阿万東町を結ぶ「阿万バイパス」(主要県道 洲本灘賀集線)約7.8kmが全線開通しました。

洲本市と南あわじ市を結び、南淡路を周回する基幹道路である主要地方道 洲本灘賀集線は、「南淡路水仙ライン」と呼ばれ、水仙郷の美しい景勝地を巡る観光道路、地域でとれる新鮮な農作物や魚介類を運ぶ産業道路、通勤・通学をはじめ生活の足として利用される生活道路など様々な役割を担っています。

しかし、バイパス完成以前の現道は、人家が連なり道路も狭く歩道もないため、通勤時間帯や観光シーズン等には、交通混雑が頻繁に発生していました。

阿万バイパスの概要

区間：国道28号賀集八幡～阿万東町
延長：7,820m

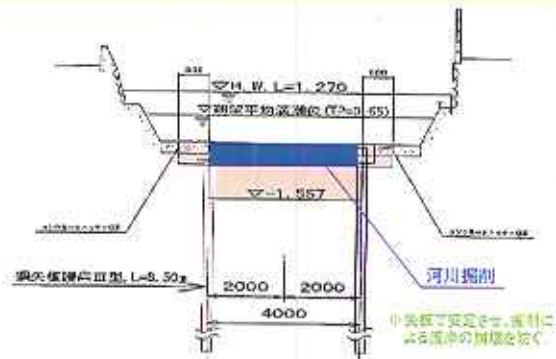


「阿万バイパス」の全線開通により、円滑で安全・安心な交通が確保され、周辺地域産業の振興が期待されます。



安全・安心な地域づくり～志筑川水系 床上浸水対策特別緊急事業～

志筑川の河床掘削



志筑川は、兵庫県淡路市中田の丘陵地に源を発し、志筑の街中を流下し宝珠川と合流後、津名港を経て、大阪湾に注ぐ2級河川です。

平成16年10月20日の台風23号による豪雨では、志筑川流域で日雨量351mmに達しました。志筑川が位置する地域は年間の平均雨量が1,500mmであり、日雨量351mmは年間降雨量の23%に値し、このことから非常に多くの雨が降ったことがわかります。この降雨により、市街地を中心に40ha(床上浸水143戸、床下浸水131戸)の浸水被害が発生しました。10年間で3回の浸水被害に見舞われていること、住宅街が隣接していることなどから、志筑川と宝珠川をつなぐ放水路を新たに設け、洪水時に河川の水を志筑川から宝珠川へ導き、安全に河口まで運ぶために、

平成18年度から抜本的な治水対策事業が行われています。本事業では以下の3つの工事を行います。

- ・志筑川約2,600mを改修する工事
 - ・宝珠川約1,150mを改修する工事
 - ・志筑川と宝珠川を結ぶ放水路約780mについて新たに建設する工事
- 平成20年5月末現在、志筑川の河口から中橋まで(一部を除いて)川底の掘り下げが完了しており、本年度は宝珠川において川底の掘り下げを実施することとしています。

※パラベット工…堤防の上部を垂直のコンクリート造りの一枚壁にしたもの

土木用語集

橋梁編

意外と難しい土木用語。そんな土木用語について少しずつ紹介していくコーナーです。今回は、橋梁に関する用語です。

用語	解説
橋台	橋の両端を支える基礎の台
橋脚	長い距離の橋を架けるときに橋桁を支えるために橋の途中で設置する柱
橋桁	橋台(橋脚)の間をつないで車や歩行者が通るときの重さを支える部材
地覆	橋の横に高欄を取り付けるための部材
落橋防止装置	地震が発生したときに橋桁がはずれて川(海)に落ちるのを防ぐ装置
親柱	橋の両端に立ち、橋の名前や川の名前を表示している柱
高欄	車や歩行者が橋の上から転落しないようにするための柵
床版	橋桁の上になり、車や歩行者を載せる部材



インフォメーション

●「県民まちなみ緑化事業」の募集●

兵庫県では、都市地域における防災性の向上や環境改善などを目的に県民が協働して、学校、公園、空き地などで行う樹木による緑化活動を県民緑税を活用して支援します。

- 募集期間：平成20年5月26日(月)～11月7日(金)
- 対象地域：用途地域の指定のある区域及び緑条例による「まちなみ区域」
- 補助対象：公園、空き地などの緑化、住宅地の生垣化、校庭園の芝生化など
- 補助内容：苗木等購入費又は緑地整備費
- 問い合わせ先：淡路県民局まちづくり課 Tel:0799-26-3213
- 申し込み先：市町の緑化担当課

●諭鶴羽ダムふれあいフェスタ●

MAPQ

夏休みのひととき、森や湖に親しみ、心身をリフレッシュし、明日への活力を養いませんか。諭鶴羽ダムで、森や湖に親しむ機会を提供し、森林やダム、河川等の重要性について関心を高め、理解を深める「森と湖に親しむ旬間」(7月21日～31日)の行事の一環として、同フェスタを開催します。

- ◆ダム一般公開・湖上巡視体験
 - 日時/7月28日(月)～8月2日(土)午前10時～午後4時
 - 場所/諭鶴羽ダム(南あわじ市神代浦壁)
 - 問い合わせ先/洲本土木事務所三原川水系ダム統合管理所 TEL0799-52-2929
- ◆イベント
 - 日時/7月28日(月)午後1時～4時30分 雨天中止(順延なし)
 - 場所/諭鶴羽ダム周辺、南あわじ市サイクリングターミナル(南あわじ市神代浦壁)
 - 内容/ウォークラリー、ゲームなど(小学生対象)
 - 問い合わせ先/南あわじ市都市整備部管理課 TEL0799-37-3014

ふるさとの風景

淡路鉄道から始まった(その11)

淡路鉄道が廃止となったきっかけは、昭和36年の踏切道改良促進法の制定でした。この法律では交通事故の防止と交通の円滑化のため、交通量の多い特に障害となる踏切については立体交差化などを実施しなければならなくなり、国道28号にあった2箇所の踏切も廃止する必要に迫られました。

国道を高架にして線路を跨ぐか、それとも鉄道を高架にして道路を跨ぐか、実際にはそれらの選択肢とは異なる、鉄道を廃止することで踏切を無くすという方法が最も費用が安かったことから採用されることになりました。その費用とは「バス購入費」「バス停等整備費」「従業員訓練費」「定期券差額損失費」などから「鉄道用地費」を除いたもので、「廃線補償」として鉄道事業者を支払われました。

この結果、淡路島から鉄道がなくなる結果となりましたが、その後の道路整備とバス路線の充実により淡路島の発展が支えられました。

環境の世紀といわれる21世紀を迎えて、鉄道の良さが見直されているところですが、環境立島「公園島淡路」としてのこれからの移動手段、輸送手段について、改めて考えてみる時期かも知れません。

(終)淡路鉄道について3年間掲載させていただきましたが、本号をもって、終了させていただくことになりました。長らくのご愛読ありがとうございました。



つくる・まもる・そだてる 淡路さわやか県土

お問い合わせ：淡路県民局県土整備部
 別土木事務所企画課担当へ
 〒836-0021 淡路市増田2丁目4-5
 TEL.0799-26-3225 FAX.0799-24-4513
http://web.pref.hyogo.jp/awa/1/su_motoco/
 メールアドレス：awajik3@crf.hyogo.lg.jp

発行：平成20(2008)年11月18日

秋号
 AUTUMN
 VOL.12



季刊誌「淡路さわやか県土」は、淡路島で行っている土木事業やまちづくりを広く一般に知ってもらおうと、淡路県民局県土整備部の若手メンバーが中心となり、編集・発行しています。

今号では、「11月18日は土木の日」ということで、裏面にて管内の事業紹介をしています。本誌をご覧の皆様のご身近なところで工事現場見学ができるかもしれませんよ。



箱型に組み合わされた石積みの防波堤。当時の石工の技術の高さがうかがえる。



歴史を感じさせる標識灯。瓦を電線管として使用している。津井ならではの発想である

風土資産 11 津井港 ～瓦産業と共に発展した港～ MAP 1

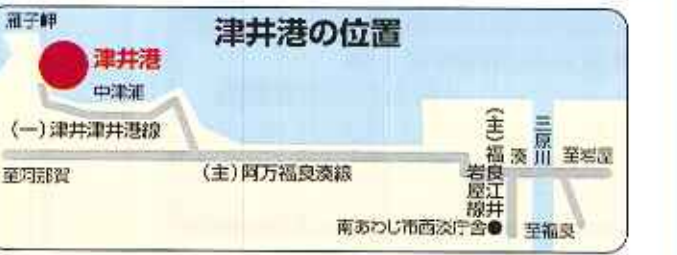
南あわじ市湊から西へ約4kmの地点に北に突き出た雁子岬があります。この雁子岬の側に津井港は造られました。津井港は雁子岬が防波堤のような役割を果たしていることから天然の良港となっています。

港の起源は不明ですが、江戸時代（1603年～1867年）初期には火打石の積出港として利用され、良質な粘土の産出地であった津井に位置していたことから、粘土瓦の積出港として発展していきました。安政4年(1857年)には、津井村の庄屋であっ

た古東領左衛門が改築し、今の港湾形状になったと伝えられています。

津井港は小さな港ではありますが、昔の洗練された技術で造られた石積みの防波堤や瓦で造った電線管、段丘に広がる集落と瓦工場など、古くから瓦の積出港として発展してきた大いなる歴史の息吹を感じることができます。

皆さんも歴史的価値のあるスモールポート「津井港」を一度訪れてみてはいかがでしょうか？



自然・共生・淡路島 ⑤ シロチドリ (チドリ科)



淡路島のシンボルマークでもあるシロチドリ

島内の自治体でもチドリをシンボルマークにしているところがあるが、「チドリ」とはチドリ科に属するシロチドリ、コチドリ、イカルチドリなどの総称で、「チドリ」という和名の生物種は存在しない。

チドリの仲間、百人一首に「淡路島かよふ千鳥の鳴く声に幾夜寝覚めぬ須磨の関守」と詠われたチドリ、瀬戸内の白砂青松とマッチするチドリは、シロチドリをおいて他にない。

ところで昨年、県民局から島の海浜部で工事を行う際の生態系保全に関するアドバイスを求められた。詳細は限られた紙面では示すことができないが、チドリ類が生息・営巣する海浜部では、産卵・育雛期にあたる4月上旬～6月末までは工事を中断するよう提案した。これは1995年6月、海浜整備事業に伴い多賀浜で巣立ち間際の本種の雛が失われた、という苦い経験を繰り返さないためでもあった。

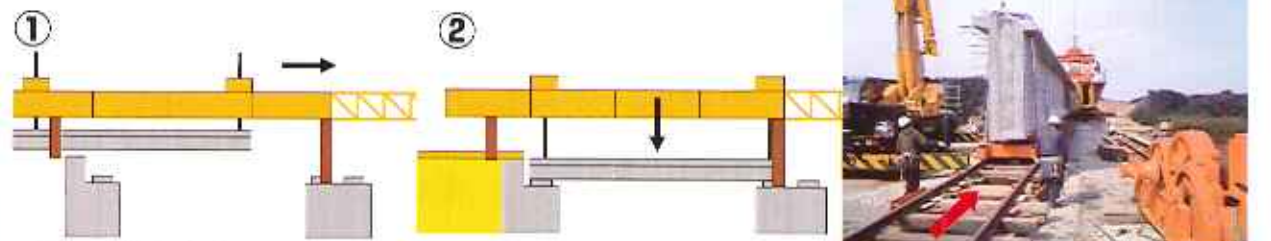
今回の事業では、県民局も環境保全には理解を示し、地元関係者の協力も得ながらモニタリングを続けた結果、工事中断中にシロチドリやコチドリが産卵・孵化し、7月上旬に観察に訪れた際には多くの個体が生息することを確認した。

人間の活動と環境保全は相対立するものではなく、対象となる者への少しの気配りで、本来の生息・生育地において共存・共生することが可能であると考えている。一部で行われている保全と称する隔離された場所での稀少な動物の繁殖や植物の栽培は、人間の驕りであり生態系保全の観点からも好ましくない。

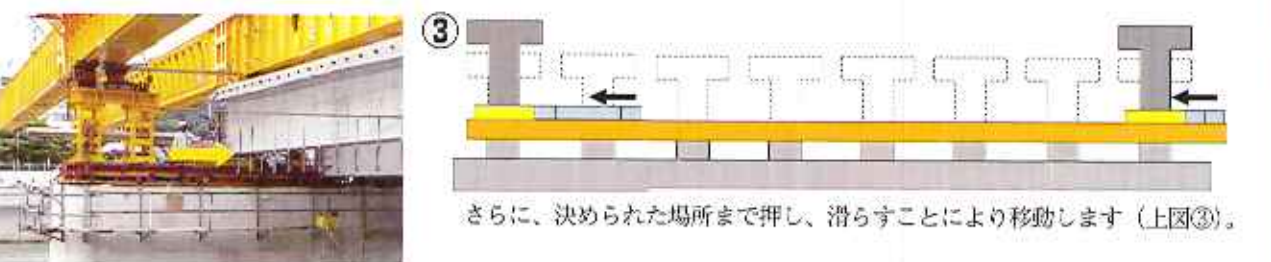
Text：倉日邦明（兵庫県自然保護指導員・環境省自然公園指導員・ネイチャー・アソシエーション/自然研(NSI)代表）（写真は竹田俊道氏提供）

洲本橋 ～平成21年11月開通目指して工事進行中～ MAP 2

架け替える橋梁の中でも洲本市の玄関口にあたり、激特事業の中でも規模が最も大きい洲本橋の工事ですが、下部工（橋台・橋脚工事）は完了し、現在は上部工（橋桁を架ける工事）が進行しています。洲本の玄関口であるこの橋は、少し変わった工法で橋を架けているのですが、どのように架けていったのが、これから紹介していきましょう。



通常は橋桁を大型クレーンで直接吊って設置しますが、今回は川の中にクレーンが設置できないため、右岸（川の上流からみて右）側から架設機に取り付けられているクレーンで吊って送り出し（上図①）、決められたところまで移動したら桁を橋台・橋脚（橋桁を載せる台の上にある滑り台）に降ろします（上図②）。



さらに、決められた場所まで押し、滑らすことにより移動します（上図③）。

決められた場所まで移動した後の微調整で位置が決まったら、桁をジャッキアップした後には橋桁を載せる台を撤去し、その後ジャッキダウンすると設置が完了します。

この作業を繰り返して全部で32本の橋桁を架けていきます。この作業は11月中に完了し、平成21年11月開通を目指して表面の舗装や照明関係の工事を進めています。

洲本川激特事業の進捗状況は兵庫県HPに掲載しています。
<http://web.pref.hyogo.jp/>
 兵庫県 → 淡路県民局 → まちづくり・防災 → (淡路地域) 洲本川改修だより

11月18日は 土木の日

11月18日を漢字で書くと「十一」月「十八」日となり、それぞれ「十」と「一」が「土」、「十」と「八」が「木」と書くことができることから、「土木の日」として皆さんに土木に対する知識と興味を深めてもらおうという試みがなされてきました。

現在、洲本土木事務所では皆さんの暮らしの安全性や利便性を高めるため、淡路島内で様々な工事を行っています。工事は大きく分類すると、道路工事、河川工事、砂防・急傾斜地工事（地すべりやかけ崩れを防止する工事）、港湾・海岸整備、公園整備などに分けられます。

この秋から冬にかけての工事は、小規模な工事まであわせると相当な数になるため、地図には現在施工中の主な工事箇所を示しています。

洲本土木事務所では、皆様に工事について理解を深めていただくための様々な取り組みを行っています。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

また、工事中は何かとご迷惑をかけることもあると思いますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

インフォメーション 『明石海峡大橋開通10周年記念』

阪神タイガース現役選手による
少年野球教室を開催します
球場周辺で淡路や徳島の物産を販売します！

- 日時：12月14日（日）9:30～15:00
- 場所：県立淡路佐野運動公園 第1野球場
- 内容：プロ野球選手が直接指導する少年野球教室の開催

※12月13日（土）には、
神戸・淡路・徳島交流野球大会を開催



県立淡路佐野運動公園園路整備工事
すでに完成している野球場、サッカーコート等の運動施設の周辺に園路、憩所、ベンチなどを整備し、より快適に楽しめる公園を目指しています。



急傾斜地崩壊対策事業（鶴崎地区）
斜面に金網型沖と鉄筋を組み立て、コンクリートを吹き付ける工事です。斜面の崩壊から住民の生命を守るとともに災害時の避難場所である岩屋中学校を保全します。



**西淡海岸護岸補修工事
（南あわじ市湊登立）**
大波による侵食を防ぎ、背後の土地を守るため、老朽化した護岸を補修する工事を行っています。



床上浸水対策特別緊急事業（志筑川水系）
志筑川中流から新たに放水路を開削して分流し、宝珠川に合流させ、志筑川上流の洪水を宝珠川に流します。併せて、宝珠川、志筑川の河川改修を行い、流域の安全性を高めます。

工事箇所	凡例
★ 洲本川水系 激特事業	28 国道
● 道路	25 県道
■ 河川	
▲ 砂防・急傾斜	
☆ 港湾・海岸	
◆ 公園	

※激特事業…河川激基災害対策特別緊急事業



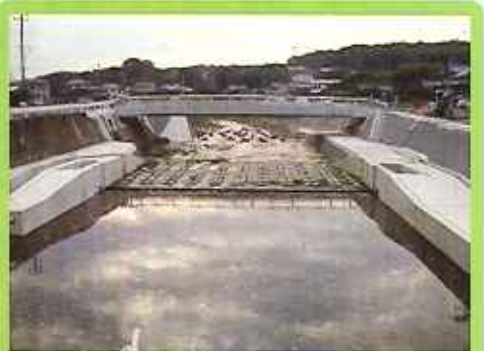
**大谷鮎原神代線道路改良工事
（木曾下バイパス）**
道幅が狭く、歩道がないため交通が混雑している道路をバイパスにする工事です。2車線歩道（片側）にすることで、安全かつスムーズに通ることが出来ます。来春3月に開通する予定です。



志知交差点改良・歩道整備工事
渋滞交差点を解消するため右折レーンを設置します。また、歩行者の安全を確保するために、歩道を整備します。



洲本川改修工事（洲本市下加茂）
洲本川改修工事では安全な川づくりとあわせて、植物の生えやすい材料を使うなど、川のまわりの環境に配慮した川づくりを進めています。工事が終わったところでは、たくさんの植物が育っています。



**八幡橋架け替え工事及び
野旦田井堰改築工事（洲本市千草）**
猪鼻川河川改修事業で新しく架け替えた八幡橋は、平成20年10月22日に開通しました。野旦田井堰は、12月から設置工事を行い、平成21年1月末に完成し、既定堰から鋼製可動堰に生まれ変わります。



**福良港陸間電動化工事
（南あわじ市福良）**
高潮、津波による浸水被害を防ぐ目的として護岸を整備しますが、船の利用者には不便なため、人や車が入り出できる扉を設置しています。この扉を陸間（りっこう）といいます。陸間は人間の力で操作していましたが、電気で作動するモーターを取り付けることで安全かつ迅速に開閉することができます。

つくる・まもる・そだてる 淡路さわやか県土

お問い合わせ：淡路県民局県土整備部
洲本土木事務所企画調整担当へ
〒656-0027 洲本市塩屋2丁目4-5
TEL.0799-25-3225 FAX.0799-24-4513
http://web.pref.hyogo.jp/awaji/sumotodc/
メールアドレス：awaji_kd@pref.hyogo.lg.jp

発行：平成21(2009)年3月23日

冬号
WINTER
VOL.13



風土資産12 鳥飼八幡宮 ～淡路最古の建築遺構～ MAP 1

洲本市の鳥飼浦交差点より一般県道鳥飼浦洲本線を東へ車で約5分、少し高台に雅な建築物が見えてきたら、それが鳥飼八幡宮です。

鳥飼八幡宮は、平安時代に京都の石清水八幡宮の別宮として建立された神社と伝えられており、現本殿は淡路では最古の建築遺構で、慶長8年(1603年、桃山時代)に再興されたといわれています。

境内には、国指定重要文化財となっている頂部に鳳凰を据えた神輿が保存されており、建物は神社建築様式のひとつである三間社流造で、かつては柿葺という薄い木片を重ね敷き詰めた屋根がありましたが、現在では銅板葺で被覆され、県の指定文化財となっています。さらには幹周りが4.1m

にもおよぶ市指定文化財のホルトノキの巨木もあり、これら淡路島が誇る文化財のオンパレードには目を見張るものがあります。

鳥飼八幡宮では、例年10月の第3日曜日の秋期大祭は多くの人で賑わい、豊作・豊漁を願い、前述の神輿や直径80cm・長さ約30mもの大綱を氏子たちが引き合う大綱引きなどの祭礼行事が有名です。



季刊誌「淡路さわやか県土」は、淡路島で行っている土木事業やまちづくりを広く一般に知ってもらおうと、淡路県民局県土整備部の若手メンバーが中心となり、編集・発刊しています。

「歴史とロマンと神話の島」を舞台にした皆さんの地元を探訪し、島の原風景や豊かな自然、生き物、慣習、近代遺産などの様々な風土資産の紹介も交えて、土木事業やまちづくりをお伝えします。

編集にあたっては、地域の皆さんの情報も数多く取り入れながら発刊して参りたいと考えておりますので、どうぞご協力をお願い致します。



自然・共生・淡路島⑥

STOP!! ナルトサワギク (キク科)

日本在来の生物の多様性を保全するため、2005年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」、いわゆる「特定外来生物法」が施行された。

外来生物のなかで特に生態系などに被害を及ぼすものを「特定外来生物」として政令で指定し、主務大臣の許可を受けた場合を除いて、飼育、栽培、運搬、保管、野外への放出等の行為が禁止されている。現在83種の生物が指定されており、淡路島でもそれらの該当種は幾つか見られるが、近年猛烈に分布を拡大し問題となっているのがナルトサワギクである。

ナルトサワギクはマダガスカル原産のキク科の植物で、国内では1976年に鳴門市で最初に発見され、淡路島では1986年には旧西淡町への侵入が確認されている。

当時はコウベギクと呼ばれ、宅地開発現場など一部の場所ではしか見られなかったが、その後10年余りの間に南部地域ではほぼ一帯に、中・北部も各所に侵入し猛威を振るっている。

一見美しい花を咲かせるので、特定外来生物と知らずに沿道や公民館の花壇に植えたというような笑えない話もあるが、アナウンスが十分でなく、何が悪いの?と思われる方が多いのも事実である。

そこで、紙面の都合でアウトラインのみしか記せないのだが……



タンポポの様な綿毛を持つ種子で繁殖するナルトサワギク

- ①開発行為、土取りや圃場整備など土地を改変した場所に本種が侵入すると、その猛烈な繁殖力と他の植物の生育を阻害するアレロパシー作用から淡路島本来の植生が回復できなくなる。
- ②海岸の砂浜や崖、山の尾根部の岩場などにも侵入し、これらの特殊な環境にしか自生しない植物の生育を脅かす。県下では淡路島の海岸にのみ分布する県版RDB Cランクのアゼトウナの自生地の一部が、既に大きな被害を受けている。
- ③本種の葉や茎には肝毒性や発がん性を有するピロリジジナルカロイドを含むため、牧草地や農地に侵入すると乳牛や和牛などの家畜に被害を及ぼす恐れがある。淡路島では2006年に旧北淡町の牧草地への侵入が確認されているが、オーストラリアなど海外では多くの被害事例が報告されている。
- ④本種の蔓延を放置することは、新たな種子の供給源を生むことになり、島内のみならず阪神間等へも被害を拡大することになる……等々と問題山積。
従って本種の拡大を許さないためにも、見つけ次第引き抜くこと。特に花をつけている場合は、焼却し種子が拡散しないようにする。駆除に伴う人体への被害は報告されていないが、作業は念のため軍手をはめて……。

本種の駆除に限らず、島民一人一人が身の周りの自然の異変に眼を向け、淡路島本来の自然環境・生態系が損なわれないよう、このような侵入者の蔓延にSTOPをかけたいものだ。



島南部の崖を覆い尽くすナルトサワギク

福良港津波防災ステーション

MAP 2

●津波防災ステーションとは？

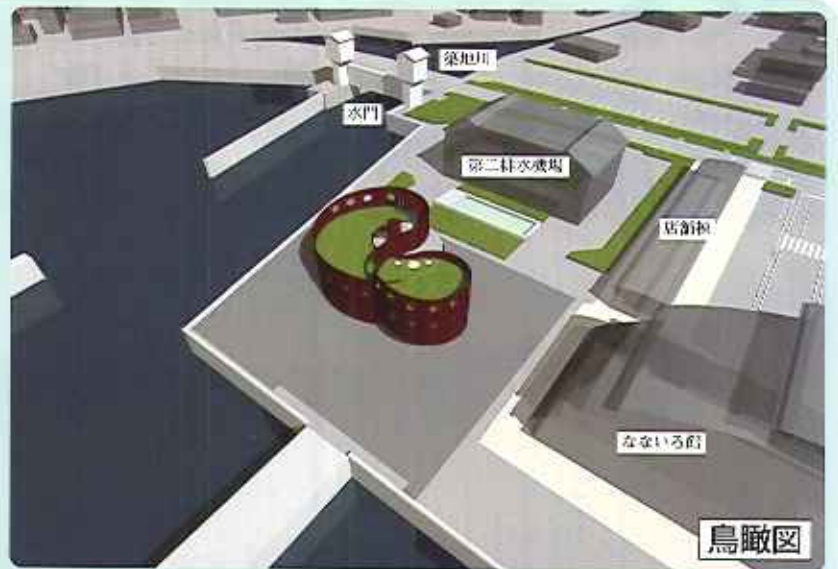
南海地震は今後30年以内の発生確率が50%以内といわれています。福良港では、地震発生から約50分で5.3メートルの津波が来襲すると予測されていることから、洲本土木事務所では、その対策の一環として「福良港津波防災ステーション」の建設に着手しました。

建設地は、福良港内にある観潮船乗り場「うずしおドームなないろ館」西側の、現在駐車場として利用されている県有地であり、2009年末までの完成を目指しています。建物は、鉄骨鋼板構造の2階建て、総床面積は約370㎡です。1階にエントランスホール、2階に中央施設制御室、防災学習室、防災関係の展示スペースなどを配置し、屋上には避難高台として利用できる屋上公園が計画されています。設計は、渦潮の動的なイメージを取り入れたデザインとし、やわらかな曲線で構成された建物は見る方向によってその表情が多様に変化することから、福良港の象徴的なシンボルとしての役割も期待されます。

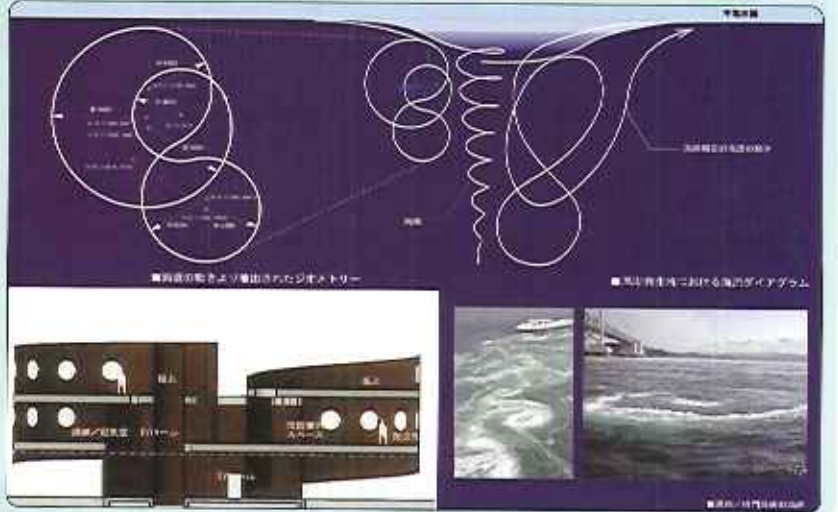
●津波防災ステーションの役割

地震計で震度5以上の揺れを計測するか、気象庁が津波警報を発令すると、福良湾に流れこむ河川に設置されている水門や、防潮堤の横引き扉等をステーションから遠隔操作し、自動閉鎖させます。これにより、津波来襲前の閉鎖完了が可能となり、被害を軽減させることができます。観潮船利用客の1次避難所としてのスペースも併設されており、観光客の安全を確保することができます。また、南あわじ市役所中央庁舎からも、水門と防潮堤に取り付けた計18台の監視カメラで確認しながら遠隔操作をすることができます。さらに、屋上および休暇村南淡路駐車場に設置予定の監視カメラ2台がとらえる映像と、津波の高さや到達時間などの情報を近隣自治体へ発信することも可能であり、広域防災情報の発信拠点としての役割を果たすことも期待されており、平成22年3月の完成を目指します。

※建物は完成するが、内部システムおよび供用開始時期については未定。



鳥瞰図



木曾下バイパス (県道大谷鮎原神代線) がいよいよ完成!!

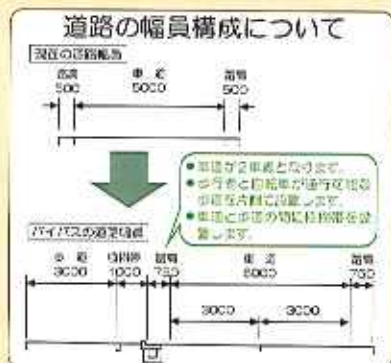
MAP 3

主要地方道大谷鮎原神代線は、淡路市大谷から洲本市五色町を経て南あわじ市神代までの淡路島のほぼ中央部を南北に貫く延長約30kmの幹線道路で、地域経済の活性化や交流の促進、そして住民生活を支える重要な道路です。

「木曾下バイパス」が計画された淡路市木曾下から木曾上までの区間は、人家が密集し、道幅が狭く歩道も無いため、朝夕のラッシュ時には慢性的な交通混雑が発生し、小中学生等の通学時には大変危険な状態にありました。

洲本土木事務所では、この課題を解消し、安全で快適な道にするため、地元のみならずご協力をいただきながら、平成14年度より「木曾下バイパス」として道路の整備を進めてきました。

工事も大詰めを迎え、いよいよ平成21年3月24日(火)に開通します。



淡路の土木・建築遺産を訪ねて (第11回)

MAP 4

～ 阿万上町公会堂 ～

阿万上町公会堂は、昭和初期に建設されました。現在も当時の姿を良く残し、住民に活発に利用され、長きにわたり地域の中心的施設です。この建物と、現在でも盛んな春祭りで用いられるだんじりを納める小屋、違和感なく建造物群の一つとなっている消防団屯所(※1)、今はあまり使われなくなったシンボリックな半鐘台(※2)がひとまとまりになることによって、周辺地域を代表する景観を生み出しています。

これらの建造物群は、地域コミュニティの核としての歴史を現在も継承し、また、活発に活用されている事例として大変貴重なため、淡路島内で初めて景観形成重要建造物(※3)に指定されました。

指定日：平成19年3月30日

指定番号：第2次指定(平成18年度)

- ※1 屯所：消防団などの集まる場所
- ※2 半鐘台：火災や洪水など非常時に鳴らす、釣鐘の小さいものを示している台。
- ※3 景観形成重要建造物：「兵庫県景観の形成に関する条例」第21条の10により、町事が指定した、地域の景観形成に重要な役割を果たしている建造物や樹木など。



阿万上町公会堂